

# 日本技術士会 原子力・放射線部会 活動の概要

2025年4月25日

# 原子力・放射線部会活動は...

- 部会員の活動の支援が第一。  
～原子力・放射線部門の技術士として職場内外で活躍してほしいと考え、様々な活動をしていきます。
  - ① 社会に対する**情報発信**、**提言の場**の提供  
⇒ 業務上の立場、観点を超えた**より自由な情報発信**が可能
  - ② 企業内での活躍や社会貢献のための**学びの場**の提供  
⇒ 技術士としての**資質**（コンピテンシー）の向上

# 原子力・放射線部会活動は...

- 部会員の活動の支援が第一。
  - ③ 技術士として活躍できる場（社会貢献）の提供  
⇒ 技術士の能力の社会への還元、認知度向上、存在感アップ
  - ④ 部会員相互、他部会員、講演会講師、地域連携などの人脈形成の場の提供  
⇒ 業務だけでは得られない幅広い人脈とそれによる幅広い視野、技術力の獲得

# 2020年度以降の月刊PEによる情報発信

号	月刊PEタイトル
2020. 12	・ 原子力事業を取り巻く廃棄物問題について考える
2021. 11	・ 核燃料サイクル施設の規制基準と六ヶ所再処理施設の安全対策
2022. 8	・ 福島第一原発事故に向き合う ・ 我が国の放射線産業の概要と今後の展望
2022. 9	・ 小型モジュール炉(SMR)の開発・建設計画と国際動向
2022. 11	・ 福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出の計画
2023. 4	・ 原子力・放射線部会Web見学会の構想検討と試行
2023. 6	・ ハイパーカミオカンデで探る素粒子と宇宙
2023. 8	・ 放射線防護の外部被ばくの線量概念-現行の概念と新たな概念-
2024. 1	・ オクロ天然原子炉より学んだ地層による 核分裂生成物の閉じ込め機能
2024. 4	・ エネルギーミックスの展望
2024. 6	・ 専門を離れ、興味の赴くままに（活躍する技術士紹介）
2025. 4	・ 原子力・放射線部門 技術士のすゝめ

月刊PE（月刊技術士）による情報発信  
 ●福島廃炉、オフサイトに関すること  
 ●安全文化、安全確保に関すること  
 ●部会／部会員の活動 等



⇒他部門の技術士へ  
 ⇒社会へ  
 …情報とメッセージ



# 原子力・放射線部会の活動（ホームページによる情報発信） 部会活動～皆さんに知ってもらいたいこと

# 2022年度以降の原子力・放射線部会CPD企画

実施時期	実施No	内 容	講師	
2023.2	第84回	原子力はどこへ向かうのか～時代の転換期の中で考える	日経新聞	滝 順一氏
2023.4	第85回	RI製造研究の現状と将来展望～RIによるがん治療法開発を中心に～	大阪青山大学	篠原 厚氏
2023.6	第86回	日本のエネルギー安全保障と原子力	東京大学大学院	小宮山 涼一氏
2023.8	第87回	放射線の生体などへの影響総論	株式会社千代田テクノル	杉浦 紳之氏
2023.10	第88回	原子力発電所の安全な長期運転に向けた取り組み	原子力エネルギー協議会/ATENA	富岡 義博氏
2023.12	第89回	農業分野での放射線の利用：主に放射線育種場で育成された主な品種と遺伝学研究の成果	浜松朴ニクス株式会社	中川 仁 氏
2024.2	第90回	高レベル放射性廃棄物の地層処分	原子力発電環境整備機構	兵藤 英明氏
2024.4	第91回	核燃料サイクルの確立と高速炉燃料の再処理技術	日本原子力研究開発機構	小藤 博英 氏
2024.6	特別講演	原子力政策と技術士の役割の向上	原子力委員会委員長	上坂 充 氏
2024.8	第92回	放射線計測の概要	日本アイソトープ協会	脇谷 雄一郎 氏
2024.9	第93回	WEB見学会「大型放射光施設『SPring-8』」	理化学研究所	河口 沙織 氏
2024.10	第94回	次世代革新炉の開発状況と国際動向	エネルギー総合工学研究所	都筑 和泰 氏
2024.12	第95回	宇宙における放射線の影響と原子力利用	JAXA	川崎 治 氏
2025.2	第96回	使用済燃料の中間貯蔵の状況	電気事業連合会	市原 貴之 氏

# 現場を見て学ぶ 2019～2024年度見学実績から

## 六ヶ所サイクル施設



## 柏葉遠隔技術開発センター



## SPring-8



2022年度～見学会のWeb化・ハイブリッド化を試行

見学先提供映像  
コンテンツ



CPD教材

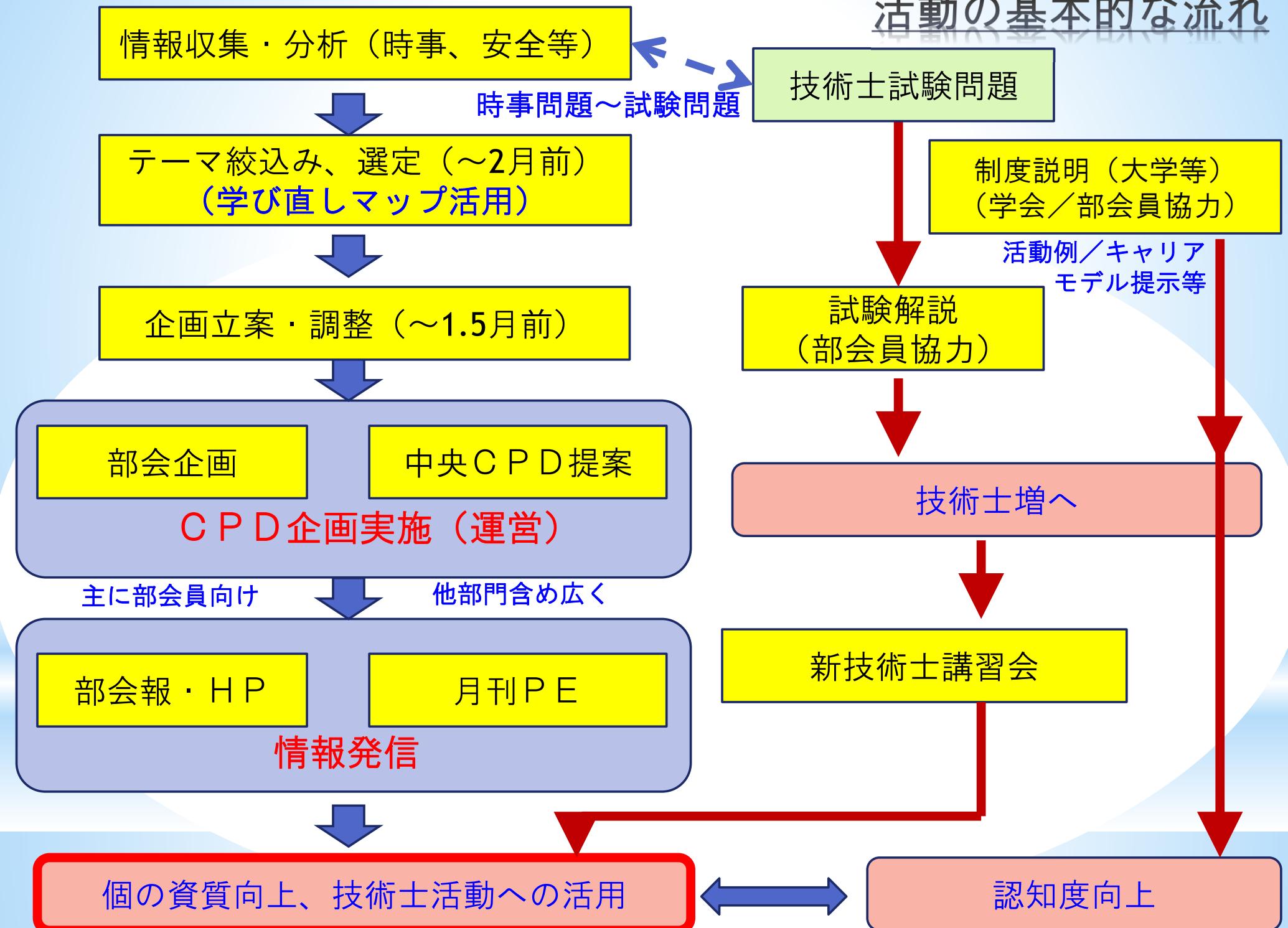


現地撮影動画



(会員専用ページ) <https://www.engineer.or.jp/cpd/pecpd/movie/?p1=1167>

# 活動の基本的な流れ



# S幹事制度～特定案件の対応協力が可能（活躍の場）～ 〔役員と同等の情報を共有可能〕（応募制）

S幹事という名は当部会特有の俗称  
⇒ Special、Support、Senior、Skype（地域との連携）…

## 役員の職務を特別に補佐する部会員

より多くの部会員に活躍して欲しい～地方からでも参加しやすい  
(制約のある個に対して活動し易さを提供する部会からの一支援)

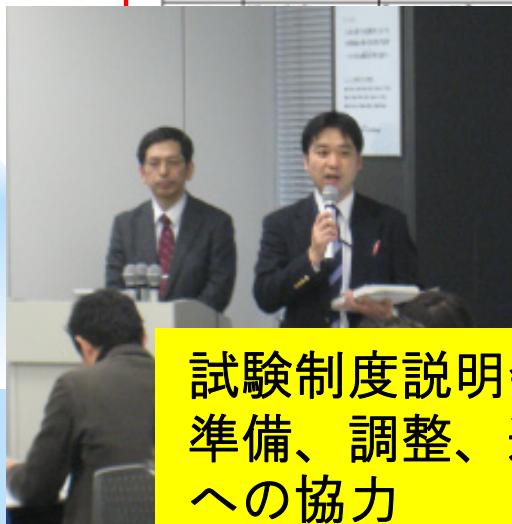
下記の他、部会と本部との連携を担う各種委員会の委員としての協力も可能

表-1 福島第一原子力発電所の廃炉について 原子力学会誌(アトモス)の記事のまとめ

氏名	所属、経歴他	学会誌(特許メモで要約ではない)
16 井上正	【ATOMO】 外代表	2015(1月号)理事会だより学会の福島復興へ貢献する 【背景】1Fの廃止措置は、かつて経験のない技術的な挑戦を行いつつ、初めて長期にわたり継続される事業 【課題】原子力分野の専門集団として「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」(委員長:吉野廣、副委員長:関村直人、岡本幸司) ①福島第一原子力発電所の廃炉実施に貢献する、②廃炉の安全かつ円滑な実施に貢献する、③新たな分野での知見を期間に伝える、

## S幹事活動例 1

## S幹事活動例 2



試験制度説明会の準備、調整、運営への協力

学会連携に係る調整・協力

大学説明会の対応協力

試験制度説明協力

企画検討に有用な学会誌情報の収集、独自の視点からの分析と、それに基づく講演会等の企画提案

時事問題の情報収集、分析等に係る検討・提案等

# 原子力・放射線部会の活動（認知度向上／技術士増の取組み） ～大学説明の拡大、原子力学会ブース開設（H30）～

大学生、社会人それぞれのキャリアに応じて技術士をアピール

## 原子力関連学部学科・大学院への技術士制度説明会

➤2024年は6大学を対象に制度説明会。約220名の参加者あり

No.	大学名	日付	部会メンバー	説明方法	参加数
1	九州大学	4/3	藤本S幹事	オリエンテーションで説明	約30
2	福井大学	4/8	井口S幹事	オリエンテーションで説明	約55
3	近畿大学	4/25	中田部会員	院生に対面説明	13
4	京都大学	4月	林部会員	パンフ・ポスターを学生用Webにアップロード	—
5	茨城大学	4月	芳中S幹事	パンフを学生に配布	—
6	都市大学	12/13	山田幹事	講義の1コマで説明	49
計	6大学	—	—	—	約140名

※2025. 2 第1回役員会資料より

## 原子力学会 秋の大会（9月、東北大）でのブース設置、保健物理・原子力学会合同大会（12月、大阪大）での講演及びパネルディスカッション

➤ 社会人を含む多数が立寄り・聴講。制度説明及び資料配布。

※2024. 12 第5回役員会資料より



大学での説明会の状況  
(2023年度)



パネルディスカッションの状況

※2025. 2 第6回役員会資料より

# 部会員とのコミュニケーションの充実

## ●部会員、S幹事 ⇒ 役員会

- ・部会員の役員会へのオブザーバー参加
- ・部会員から役員会への情報提供  
(例会テーマ/講師選定のための学会誌執筆者情報の整理)
- ・S幹事からの情報提供  
(関連学協会のシンポジウム/WS等の情報の定期的な供与)

## ●役員会 ⇒ 部会員、S幹事

- ・WEB中継システムによる例会の配信
- ・例会のストリームオーバー／カムタジアスタジオ収録、講演資料の掲載、詳細レジュメの掲載(会員サイト)
- ・本部移転に伴いスカイプ導入予定
- ・役員会もWeb会議の導入を計画
- ・就職斡旋情報等の掲載、見学会情報等の限定掲載
- ・アンケートのHP掲載や執筆者との個別コミュニケーション



# 參考資料

# 平成29年度の月刊PE（月刊技術士掲載記事）

号	月刊PEタイトル
2017. 4	• 新たな <b>技術者倫理教育</b> に向けて
2017. 11	• <b>女川原子力発電所</b> の事例に学ぶ（部会CPD関連）
2017. 12	• <b>福島高等学校スーパーサイエンス部放射線班</b> として東日本大震災後の取り組みで学んだこと（部会CPD関連）
2018. 1	• <b>原子力・放射線部門の活動</b> と将来展望
2018. 2	• <b>島根原子力発電所</b> 機器故障予兆監視システムの開発について（部会員から）
2018. 4	• VR技術を応用した <b>福島第一原子力発電所の廃止措置</b> への挑戦（部会CPD関連、部会準会員から） • 原子力・放射線部門における <b>技術士の認知度向上</b> と技術士増に向けた取組み
<b>関連</b>	
2017. 10	• 福島が問う新しい「技術の安全」越智小枝氏

# 2022年度の原子力・放射線部会CPD企画

実施時期	実施No	内 容	講師	
2022.4	第78回	ハイパーカミオカンデで探る素粒子と宇宙	東京大	平出 克樹氏
2022.6	第79回	福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出に関する計画について	東京電力	松本 純一氏
2022.8	第80回	福島第一原子力発電所周辺の放射能について-事故後の放射能の推移-	福島大	鳥居 建男氏
2022.10	第81回	JAEA楢葉遠隔技術開発センター Web見学会	NARREC	野崎 信久氏
2022.10	第82回	商業炉の解体廃棄物の処理処分の進捗状況について	エネ総研	平井 輝幸氏
2022.12	第83回	福島第一原子力発電所廃炉研究開発の現状	IRID	奥住 直明氏

## 「過去10年を振り返っての今後の10年の活動方針（H26／6）より

### 〔制度活用が期待通りでない原因〕

- 有資格者数の絶対数の不足（外的、内的要因）
  - ～技術士資格活用を制度化できる状況にない
- 技術士資格の認知度・認定度の不足（外的、内的要因）
  - ～組織内において技術士が高い技術力・倫理性を有するとの評価を得ていない
  - ～一般に対し技術士資格の知名度が低く技術士資格の活用がセールスポイントにならない
- 部会・個人の努力不足（内的要因）
  - ～部会活動の目標が不明確、アクションプランがない
  - ～部門技術士個人の組織内外での存在感を示す努力不足
- 3. 1 1 事故の影響（外的要因）
  - ～原子力事業の停滞
  - ～原子力ムラへの社会の不信
- 許認可体制の壁（外的要因）
  - ～審査・検査の第3者機関への移管が困難